

# 子ども探検隊

「特集」

子どもの「不思議」を、子どもの目線になって、  
子どもの気持ちに寄り添って、

「子ども」に近づく探検をしてみませんか。

社会福祉法人 宝安寺社会事業部

# 福祉ほうあん

## 子ども探検隊 入隊3ヶ条

あなたの「!？」は、子どもの世界への入り口。  
探検隊の一員になるのは、意外と簡単ですよ。

- その1 子どもの視線になってみる、よく見てみる。
- その2 やたらと手を出さない、声をかけない。
- その3 そっといっしょにいる、同じことをやってみる。
- .....
- 上級編 子どもの探検をうながす裏方になる、徹する。

【特集】

# 子ども探検隊

～そのまなざしに映るもの～

空を見上げる子どもが  
「お空は綺麗な、緑色だね」といいました。

せんせいは、  
「今日のお空は、緑色だね」といいました。

子どもの言葉・行動で、  
不思議に思うことがたくさんあると思います。  
大人の思いや価値観と、子どもの思い、  
そこにズレが生じるときがあり、  
そのズレが、時には大人を困らせることもあります。

子どもの『不思議』を見つけたら、子どもの目線になって、  
子どもの気持ちに寄り添って、  
『子ども』に近づく探検をしてみませんか。

子どもの楽しい発想に気がつくと、  
きっと大人も笑顔になるはずです。

## 子ども探検隊の背景

子どもが笑っているのは、なぜなのか、何を楽しく感じているのか。大人の困り感は、子どもにとっての困り感と同じなのか。一人ひとりの子どもの世界があり、一人ひとりの良さがある、そこを見つけて育てていく。私たちの仕事。  
今の困り感や当惑が、将来笑い話になるように。子どもの世界に、近づく・知ろうとする・寄り添うことで、子どもと大人の心がより繋がっていく。  
子どもも、せんせいも、おとうさんも、おかあさんも、みんな一緒に育っていく。

## Contents

ほうあんふじ	04	小田原乳児園	10	コラム きらり通信	20
小田原愛児園	06	パン工房グウテ	12	おわりに	22
ほうあんうみ	08	こども探検隊座談会	14		



社会福祉法人  
宝安寺社会事業部

時は1900年。当時の和尚夫婦が地域の子どもや若者に教育の場を提供したことから、宝安寺の社会福祉事業がはじまりました。大震災や世界大戦を乗り越え、その時々で地域に必要とされていることは何かを考え、少しでも力になれるように…。現在は、浜町・曾我大沢・根府川で、子どもたちや障害のある方々の人生に寄り添う、様々なお手伝いをさせていただいています。

# 虹色の世界へようこそ

毎日は驚きと喜びと発見にみちている・・・。

**皆**さんの毎日は、笑顔に満ち溢れていますか？  
大人になるにつれ、どこかに置いてきてしまった忘れ物を取りに行く冒険の旅にでてみませんか？皆さんもぜひ、子どもたちの世界に迷いこんで、子どもたちと一緒に虹色の世界を体験してみましょう。

あなたのすぐ横にその世界はいつも広がっていますから・・・。どこにでもあるような日常が、子どもたちの魔法にかかると、とたんにカラフルに色づき始め輝きだします。想像力って、ほんとにすごいと思います。

ある日の外遊びでのことです。  
カエルを見つけたY君、「これ、うちの子、**けろた**。」と、名前をつけてあげ、おままごとの鍋の中にはっぱを入れ、おうちを作ってあげていました。そして、「このはっぱね。あったか草って言ってね、けろたが大好きなお布団なんだよ。」と教えてくれました。

また、小さなビニール袋に、いっぱいのお石を詰め込んで手に持つT君、「**恐竜の化石**見つけたんだよ。これ、おうち持って帰らなくちゃ。」



他にも、グラウンドを大きなキャンパスにして、かわいい花や魚の絵を描く天才画家のMちゃん。「ここが、僕のおうちで、ここが先生のおうち、この橋でつながっているんだよ。」地面に木の棒で、家や橋や道路を描いている**建築家**のK君・・・、子どもたちの見ている世界は、青空に負けなくらいキラキラしていました。



ダンゴムシの行列を見て

「みんなどこへいくのかなあ？」  
「公園に行くんだよ！」



電車のおもちゃを寝ころびながらゆっくり動かしているH君、電車の窓から見える景色を想像し、世界中を旅しているのでしょうか。

給食の時、おかわりの**おにぎり**を先生に作ってもらったK君、食べ終わって片付けの時に、ビニール袋でタオルを包んで、「せんせい、食べて、おにぎり。」と、笑顔で渡してくれました。嬉しかったおにぎりを今度は、お礼に作ってくれたのでした。



おひつくりごぞー！

こんな風に、子どもたちの毎日は、驚きと喜びと発見にみちています。でも、忙しくしていると、つい、こんなステキな子どもたちの世界に気付かず、通り過ぎてしまう・・・、ほんの少し立ち止まってみてください。そして、子どもたちの隣にしゃがんで一緒にみてください。きっと、世界が今よりもっと輝き始めますよ・・・。

「この記事は / 私が担当しました！」

名前: 榎木一馬(保育士)  
趣味: サッカー  
好きな食べ物: ピザ  
最近ハマっていること: 絵本



# 「いいこと考えた！」

子どもの中に広がる可能性を感じる瞬間

1 人の子どもが風邪をひいて休み久しぶりの登園時のことです。

「大丈夫?」「病院でお薬もらって治ったよ」「私も飲んだことある。オレンジ味」「たま(錠剤のこと)も飲めるの?」「すごい」

私は、子どもたちの会話からゴザヤクッション、タオルなど病院ごっこに必要な物を準備し、いつでも再現し楽しめるよう設定しました。また、いずれ必要となるもの(薬など)を作って遊べる制作コーナーも設定しました。「いいこと考えた!病院ごっこしよう!」

## <あそび開始〜>

「ちょっと熱があって…」「じゃあ、注射しましょう!」

「え?!(お熱だけなのに…)」何でもかんでも注射をしたいようです。「先生も早く寝て!」「はい!」「暴れないで下さい!」(暴れてないのに…)「おさえて!」「はい、もうちょっとね」と押さえられています。きっと自分もイヤ〜と抵抗したことがあるのでしょうね。それもまた経験です。

こちらは、点滴とお薬工場。「いいこと考えた!」「ピンクの点滴にする?」「いいね」…いろいろなアイデアのつまったお薬が生まれています。想像力Good!

## <トラブルも発生>

「私も注射する人になりたーい」「ちょっと待って順番!」「だって、ずるーい」と喧嘩になることもありました。そんな時はそっと見守ります。4・5歳児は相手の気持ちも考えたり、譲ったり、譲られたり友達と関わり



お薬も作っちゃいます!  
「ゲンキダ錠」



お医者さん役は、注射・点滴と大忙し!  
病人はぐったり静かにしています。

合いながら思いやる心が育まれていくからです。先生は「それでどうしようか」と傍で迷わないよう道しるべとなって寄り添うだけです。

この時は「じゃあ、3人注射したら交代しよう」と自分たちで決めていました。こうした経験も将来、問題にぶつかったとき、自分で考えたり判断したり良いアイデアを閃いたりすることにもつながっていけばと思っています。

## <こんな遊びにも展開>

「いいこと考えた!お菓子も作ろう!」注射のあと、ごほうびにお菓子をもらう経験がある子どもから、お菓子屋さんが登場しました。風邪が治ったら、みんなで冒険にでかけて、おながすいたら回転ずしに行くそうですよ。



いらっしゃいませ 何名様ですか?  
ここにお名前をお書きください。順番にお呼びします。



治療して元気になったら、  
みんなで回転ずしパーティー!



かんぱーい!!

現実と空想の世界を行ったり来たりしながら、あそびの世界を旅しています。いいね!

「できた!」「楽しかったね」「また遊びたい」「次はこうしよう!」いつか咲く可愛いそれぞれの花に、これからもあそびという栄養と愛情をたっぷり注いでいきたいと思っています。



病院帰り、ご褒美のお菓子!♡グミが人気!

この記事は /  
私が担当しました!

名前:石川和代(保育士)  
趣味:旅行  
最近ハマっている事:甥っ子とクッキング  
好きな食べ物:イチゴ・チョコ・お寿司(特にまぐろ)



# 忘れかけていた探求心

「なんで?」「どうして?」「できた!」で輝いている☆

子どもたちとの毎日には新鮮でキラキラした宝物や発見がいっぱい詰まっています。子どもたちと一緒に「どうして?」と考えると私には考え付かないような答えがいっぱいです。「どうするのかな?」と立ち止まって見守ると子どもたちの思いもよらない姿に出会えました。

◎野菜が嫌いなH君。この日の給食は、パンとサラダと鳥の照り焼きにコーンスープ。H君は当然のようにサラダを残します。…と思いきや、この日は違いました!!私がパンにサラダと照り焼きチキンを挟んで「おいしい!おいしい!」とH君の目の前でサンドウィッチを食べていると、それをキラキラした目で見ていたH君。「H君もサンドウィッチ食べる?」と聞くと「サンドウィッチ食べる!」と答えたので作って渡してみました。もちろんサラダを入れて。どうかなあ…とみているとパクッとサラダも食べられました!食べた瞬間にクラスにいた職員全員が拍手を

しました。「すごーい!」「お野菜食べられてH君かっこいい!」などとたくさん褒めると嬉しそうに笑って「H君すごーい!」と自画自賛。それ以来、サンドウィッチの日は必ず野菜が食べられるようになりました。



こうやって食べたら美味しーいよ!



お友だちの手あったかい!

◎冬…小田原愛児園の園庭に遊びに行くためお友だちと手を繋いで歩いていました。私たちの手も子どもたちの手もひんやり冷たくなりました。そんな時Kちゃんから「先生、こっちの手(お友だちと手を繋いでいないほうの手)は冷たいけど、こっちの手(お友だちと手を繋いでいるほうの手)はあったかいよ。どうして?」と聞かれました。私は「どうしてだと思っ?」と聞きなおしました。するとKちゃんは「お友だちと手を繋いでるからじゃない?あ!お友だちってあったかいてことなんだね。すごーいね!」と教えてくれました。私の心もあったまりました。

◎トラックで遊んでいたK君はトイレに行きました。その間にそのトラックを他のお友だちが床で走らせた。走らせたトラックは壁に激突!その光景を見ていたMちゃんは、トイレから帰ってきたK君にジェスチャーで「あっ、あっ!」と言いながらK君をその場に連れて行き、手と手をぶつけて「ぶつかった」、手を頭に添えて首を振り「大変だ」、車を走らせたそぶり「くるま」と表現しました。するとK君は「あっ、ほんとだねー。」と会話をしていました。Mちゃんは「うんうん」と満足そうな表情。その後も2人で楽しそうに遊んでいました。子どもってすごいな一と思った瞬間でした。



できた!



やった!

これあげるね!



そうだね!

動いたかな?

何かな?



アリさんだ!

ほんとだ!

◎愛児園の園庭にはたくさんの宝物が落ちています。石、葉っぱ、エンドウ豆のように見える藤の実のカラ…などなど。それを持って帰って事務の池谷さんに「今日はこんなものが落ちてたよ」「ほら、こんな宝物だよ」と見せています。その葉っぱやさやえんどうのカラのようなものがほうあんうみにたくさん集まりました。その葉っぱ全部に顔を描いたお子さんがいました。何やら池谷さんと楽しそうにお話をしながら…描いていました。その話に耳を傾けてみると「顔を描いたから今日動くんじゃない?」「そうかもね」「遊戯室に行行って遊んだりして」「そうかも、そうかも」と楽しそうに笑いあっていました。

次の日、そのお子さんはカウンターに置いてある葉っぱたちを見て、「動いた、おうちにちゃんと戻ってる!」と嬉しそうに教えてくれました。実は、前日、カウンターに置いてあった葉っぱたちを、池谷さんが花束のようにきれいに飾ってくれていました。動いたと教えてくれたその子の目はとってもキラキラと輝いていました。

子どもたちの「なんで?」「どうして?」「できた!」の宝物をピカピカに光らせることができるように、私たちは子どもたちと一緒に考え、共に喜び、毎日を輝かせていきたいと思えます。

この記事は / 私が担当しました!

名前:吉森萌(保育士)  
趣味:洋服を買うこと・家庭菜園  
最近ハマっている事:ジェルネイル・SUP  
好きな食べ物:おかし・ハンバーグ・オムライス



# どうしたの？

今日も赤ちゃんは探検中……！

0歳児クラスでの、ある日の出来事です。  
笑顔で遊んでいたAちゃんの表情が、ふと真剣な表情へと変わる瞬間がありました。  
Aちゃんがどんなことを感じているのか、その世界を知りたいと思い、  
せんせいは子ども探検隊になってみました。



さみしそうです。  
いつもは指しゃぶりをする手もいつの間にか口から離れて、それほど真剣に見入っています。

そんな表情からは、「笑ってるの?」「楽しいの?」「うん...ちがう...」  
「悲しいの?」「さみしいの?」「痛いの?」  
「おもちゃが欲しいの?」と、Aちゃんの心の声が聞こえてきます。

せんせいが泣いている子を優しく抱っこすると、優しい目、優しく語りかける口元、にっこり笑顔、ぎゅ〜と抱きしめて頭を撫でているせんせいの姿がAちゃんの目に映りました。

あっ！せんせいが笑っている！  
あれ？お友だちも笑っている！

Aちゃんは自然と手を伸ばし、お友だちの頭を小さなおてでいいこいこ。  
不安げで真剣な表情はすっかり消え、お顔はにっこり嬉しそうでした。



子どもの力ってすごいね！

いつもと違うお友だちの姿に気付く子どもたち。  
表情を見ながら思いをくみとろうとします。  
小さな子どもでもびっくりするほどの観察力です。

ぎゅっと抱きしめてもらったり、笑い合ったり、  
嬉しい！楽しい！という雰囲気が大好きですぐにまねっこ。  
“自分も！”と一緒に真似したり、お友だちにもしてあげたり、  
模倣する力も持っています。



身近な人と関わる中で、  
子どもたちはいろいろなことを感じて身につけていきます。  
吸収する力も無限大！！

たくさんのパワーは、その子ども自身の成長する力となります。  
そんな子どもたちのたくさんのパワーを私は思いっきり受け止め、  
輝く満面の笑みをいっぱい生み出す保育をしていきたいと思ひます。

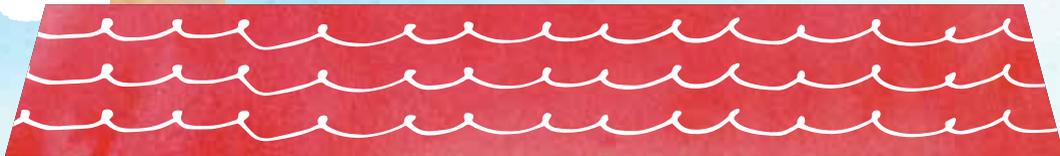
この記事は / 私が担当しました！

名前: 佐藤悦子(保育士)  
趣味: カメラ  
最近ハマっている事: 撮影先でオシャレなカフェ探し  
好きな食べ物: いくら チョコモナカジャンボ



一度食べたらクセになる！

# パン工房グウテの美味しいパン



パン作りのことなら  
お任せください！

中村職員

パン工房グウテ  
ほうあん第一しおん内  
〒250-0024  
小田原市根府川389  
TEL:0465-29-0146  
FAX:0465-29-0705

創業 14年。

パン作りへの熱い想いは今も変わらない。

パン工房グウテではパンを作って35年、パン屋「沼津ベーカリー」、「パンデロール」の店長をしていたという経歴を持つ中村職員指導の下、数名の利用者が毎日60種類ものパンを焼きあげている。小麦はパンによって神奈川県産「湘南小麦」と北海道産「ゆめちから」を使い分けて使用。パンごとにこだわって作っているため、パン一つ一つが確かな存在感を放っている。美味しいパンを食べてもらおうため日々利用者と共に腕を振っているとのことだ。

毎日のパン作りの中で、利用者の技術向上の取り組みも同時に行われている。ある利用者は誰よりもきれいに成形を行うことができるようになり、ある利用者は、指示を基に焼きあがったパンの出荷の準備を一人でこなす。

グウテで働く利用者の中には「世界一のパン屋になる！」と意気込み、中村職員を「師匠」と呼んで毎日一生懸命になって働いている方もいる。パンを食べるお客さん、パンを作る利用者どちらもグウテを形作る大切な要素である。

グウテには直営の販売所がない。様々な店舗での委託販売や注文を受けてからの配達等でお届けしている。ロスが少ないというメリットの反面、固定客がつきにくく認知されにくいというデメリットもある。主な取引先はかまぼこで有名な「鈴廣かまぼこ」をはじめ、小田原百貨店、朝ドレファ〜ミ♪、ヒルトン小田原、茶のまあるなど。小田原市を中心に幅広く評価を得ている。この機会に興味を持たれた方にはぜひ一度ご賞味いただきたい。

パン作りの様子をご紹介します！



1. 今日もよい焼き色に焼きあがってます。 2. 利用者の判断でパンに合ったサイズの袋に入れます。 3. 利用者がオーブンの設定から焼き上がりまで担当。 4. パンのトッピングは利用者主体でやっています。

## スタッフの おすすめ



焼き  
ドーナツ ¥150

本来のドーナツのように油で揚げることはせず、オーブンで焼くため軽く食べることができる。味も6種類ありバラエティ豊かで全種類を味見したくなる。※写真は「チョコ味」



メープル  
メロンパン ¥130

メープルの香りがする少し硬めのクッキー生地の中には、メープルのクリームを吸い込みしっとりしたパン生地とその香りを閉じ込めた空間が広がっている。一見大きいメロンパンに見えるがとても食べやすい一品。



doughnut

melon

# 子ども探検隊 座談会

今日集まったのは、宝安寺社会事業部の4つの園の保育士たち。園の名前は違ってもみな同じ年代の子どもたちの担任の先生です。子どもたちの世界や時間を行き来できる、いつも一緒に過ごしている保育士たちの仕事のひみつとは？子どもたちのひみつのお話、聞いてみました。



私たちのひみつのお話？

## 1 先生と子どもたちの関わりとは？

**司会**：今日はお集まりいただき、ありがとうございます。保育士の視点から見た子どもの世界、ということで、まずは、先生たちが子どもたちとの関わりの中で日頃から感じていることを自由にお話いただければと思います。

まちがえて「パパ」って話しかけられることも…

**石川さん**：私は小田原愛児園で4歳児のクラスを担当しているのですが、子どもたちから時々まちがえて「ねえねえ、ママ」って話しかけられたりします（実は「パパ」って呼びかけられることも…）。そんな風に、時に親のように思われたり、友だち同士みたいに「ねえねえ、あれさ〜」って話しかけるときもあったり、「お世話してくれる人」「先生」っていうよりもうちょっと身近な関係のようです。もっと小さい赤ちゃんだと、本当に身近な感じですよ。

**佐藤さん**：そうですね〜。私の0歳児クラスの赤ちゃんたちが、まさにそう。

**石川さん**：少し離れた時に、追いかけてくる姿がすごく可愛いんですよ。

中山里奈さん

小田原愛児園  
ちゅうりっぷ組(2歳児)担任  
／伝え方研究PT委員長

司会



吉森萌さん

ほうあんうみくじら組  
(5歳児)担任

栢木一馬さん

ほうあんふじにじ組  
(5歳児)担任

太田香織さん

「子ども探検隊」隊長

司会



佐藤悦子さん

小田原乳児園  
たんぼ組  
(0歳児)担任

石川和代さん

小田原愛児園  
ゆり組  
(4歳児)担任



※担任クラス名は平成30年度のものです

**佐藤さん**：トイレに行きたいだけなのに「いかないで〜」って泣かれる時があります(笑)。

子どもの「固執」にならない存在ということ

**栢木さん**：僕は保育園勤務が長かったのですが、今はほうあんふじで5歳児の児童発達支援に関わっています。保育園では子どもたちにとって「頼られる存在」、「安心できる存在」を目指していましたが、療育が必要なお子さんの場合は、自分がその子の「固執」になってしまっはいけない、と思っています。学校に入学するなど、環境が変わった時に、誰とでもスムーズに過ごせるようにしていく必要があるのですが、離れすぎて関係が作れないのもダメだし、近すぎてしまってもダメ。その境が難しいです。純粹にただその子のことが「好き！」でよかった今までの保育園での考え方を変えていく段階で、未だに悩んでいます。それでも、子どもたちが好きだし、自分のことを好きになってもらいたいという気持ちは、保育士である限りずっと変わらない。なので愛情100%になってしまうんですけど(笑)。そのように「気を付けよう」という気持ちは持っています。

同じ目線で、同じ気持ちで

**吉森さん**：私はほうあんうみで5歳児の発達支援をしています。その中で意識しているの

保育士さんと一緒に、  
子どもの世界をのぞいてみよう！

"member"

は、「対等の立場にいる」こと。「先生」では遠すぎる、「お母さん」では近すぎる…考え方や感じ方は一人一人違うから、同じ目線に立って見てみないとわからないことがいっぱいあるんです。話が上手にできなったり、伝えることが得意じゃない子もいます。例えば、怒っている子がいるとき、「さっきああいうことをして、その後これをしてたから…」って、その子の立場に立ちながら順を追って考えると、怒りの原因が理解できる時があります。

もちろん、子どもたちは本当に可愛いので、たくさんスキンシップしてしまうんですが、就学に向けてなど少し距離を置くことも必要な子もいて気を付けています。実はこの適度な距離感が、私にとっては難しいんです。以前の職場の乳児院ではずっと「お母さん」という立場でやってきたこともあり、なかなか慣れなくて「もう出来ないかも」って思うこともありました。乳児院とは違って3か月経ったからといって成長がわかるわけではない子どもたち。でも1年経ったときに「あの時あれをやらなきゃいけなかったのか…」と気づくことがあって、2年目からより心を引き締めて子どもたちと向き合うようになりつづつあります。それは、「同じ立場で、同じ気持ちになる」ということ…わかります

か？  
**司会**：その子の考えていることがわかるようになっていくことですね。  
**吉森さん**：そう！「この表情の時はこれだ！」みたいな。でも、あえて一旦「何をしてほしかったの？」って聞いてみたりします。自分で伝えたり出来るようになってほしいから、一人一人の出来ることに合わせてその子自身になるように考えているんです。

一人一人の未来のために

**佐藤さん**：今は小田原乳児園で0歳児を担当しているのですが、以前担当していた1歳の関わりが難しいお子さんがいたんです。お気に入りのトミカのスポーツカーで遊びたくてたまらなくて、お給食もそっちのけ。食べたらずぐに遊びたい。その気持ちはすぐわかるし、心が読めるよう。だけれども、私が先回りして遊べる環境をつくってしまうのではなく、その子から「こうしたい！」「じゃあそうしよう」という応答をしっかりと取り入れるように保育をしました。そしたら、だんだん「お給食」→「(遊ぶ前に) パジャマにお着替え」→「ミニカーで遊べる」というやりとりが少しずつできるようになり、とにかく遊びたい気持ちが強いなかでも、なんとかお給食に向かえるようになりました。そんなコミュニケーションややりとりを繰り返すこ

とで、言葉の発達にもつながっていきました。子ども一人一人が違うから難しいんですけど…小田原愛児園ではどうですか？

**石川さん**：集団の中で個を伸ばすことを大切にしています。集団での協調性や社会性を大事にしながら、一人一人の持ち味をいっぱい伸ばしていきたいです。

**司会**：みなさん、働いている園は違うけれど、共通する想いも沢山ありますね。それは、子どもたちの未来を見越した上で、愛情たっぷりで関わっていること。全てはその子のために、愛をもって関わっている印象を受けました。

1 子どもたちの世界を深めるために、  
2 気を付けていること、  
やっていることは？

**司会**：さて今度は「遊び」に焦点を当てながら、大人が介入しない、子どもたち自身の発想や発露力で深めていく世界についてうかがいたいと思います。

**全力先生、どろんこ、ずぶぬれ**

**朽木さん**：僕は、子どもたちは僕よりも上の立場にいると思っています。それは、自分が大人になっていく間に無くしてしまったり忘れてしまった大切なものを全部持っているから。そんな子どもたちの見ている世界に追いつきたくって。遊ぶ時は負けられないように、全力以上の120%でいかないと！自分が本気で楽しければ子どもたちも絶対楽しいと思っていますので、最後まで遊びきらないといられないんです。どろんこ遊びを始めたら最後には1番自分が汚れていて、プールでも1番ずぶぬれ。子どもを見守りながら、遊びが盛り上がった、「保育者は引く」ということができな。僕も泣いたり、怒ったり、喧嘩したりします。

**太田さん**：でも朽木先生の場合、大人げない

って感じではないんです。考えながらやっているんだって感じがするんです。クラスの中では朽木先生のような関わりの保育者とそうでない保育者が連携を持っています。

**司会**：子どもたちの方がずっと上で、自分はそのについていかなきゃってという考え方がすごい。愛児園とふじとの交流保育（インテグレーション）が楽しみです。



**カエルの「ケロ」**

**司会**：朽木先生は子どもの世界を追っていて面白かったエピソードありますか？

**朽木さん**：毎日、面白いことだらけなんです。虫が苦手な子がクラスにたくさんいた時に、ある職員がテレビで「子どもの虫嫌いをなおすには、虫に名前を付けるといい」というのを見て、それを実践してみたことがあります。カエルに「ケロ」とか名前をつけて、「うちのケロが行っちゃう」「うちのケロをつかまえてきて」と先生と呼んでいるうちに、さわれる子が増えていきました。「今日もケロいるね」「今日はケロがないね、散歩かな」とお友だちと話したりするように。虫たちを大事にする姿が見られるようになりましたね。

子どもが虫探しをする集中力はすごいんです。ある日、虫が大好きな子が園庭で虫を捕まえたんですが、ふと気が付くと捕まえてお

くためのビニール袋を忘れていたんですね。すると、おもむろに自分の靴下を脱いだんです。そしてその中に虫を入れたんです。それから靴は履きなおして、靴下片手に虫探しを再開。その後、今度はバッタとカエルを捕まえました…そしてもう片方の靴下も脱いで、バッタとカエルを分けて入れていました。以前、カエルはバッタを食べるという話をしたのを覚えていたんだな、と思いました。

**石川さん**：靴下に入れるって、すっごく考えたんですね。

**朽木さん**：はじめは片手に虫を持って捕まえていたんですけど、それではやりにくいって思ったんでしょうね。

**司会**：すごいね、子どもって。大人にはない発露力ですね。

**実験体をあそびのなかで再現**

**司会**：石川先生のクラスに行った時、病院ごっこをしていましたね。子どもたちが先生手作りの「点滴」で治療を受けていました。寝転がっている姿がすごくリアルで楽しそうでした。

**石川さん**：体験したことを遊びに取り入れて、子どもの世界で模倣して追体験して楽しめるように環境を設定し工夫しています。すると、意欲的に遊びに参加したり、それをさらに発



展させる子どもたち。劇を見に行ったことを再現しようとした時には、何も決めていないのに、みんなで「せーの」って何かを歌おうとしていました。どんな歌か知らないから、はじまらないんですけど…可愛いですよ（笑）。夏休みに水族館に行った子が「あなたは、えさをあげる人」「あなたはイルカちゃんね」など配役を決め、お客さんと呼んだりもします。このように、自分がした経験を遊びを通して友だちと共有することで、社会性が育まれると思うんです。成長の中でも大切です。

**先生は名裏方**

**司会**：石川先生はそういう「ごっこ遊び」の時には子どもたちの中に入っていますか？

**石川さん**：劇遊びが始まる時は、最初は子どもに呼ばれて与えられた役で混ざっているけど、やりたい子が増えてきたら自分が身を引いて、今度はその遊びに必要なものを準備する役に回ります。子どもたちから「先生、これも用意してー」と言われたりするので、環境になりきります。あとは、盛り上がるように、音楽をかけたりします。この様子を縦割り保育の小さい子たちが見ている、参加して学び合う姿が見られます。

**司会**：経験したことを実際に遊びに発展させる子どもの力がすごいですね。

**石川さん**：遊びの小物もリアルに作ります。病院ごっこだったら、愛児園薬局の「ゲンキダ錠」と名前を書いたり、ペットボトルで点滴を作ったり。すると、看護師役の子はかいたいしくお世話し、患者役の子はぐったりして病人になりきります。「動かないでください」「すぐ終わるよー」など経験したであろう会話を織り交ぜながら遊んでいますね。

**水たまりで絵を描こう！**

**吉森さん**：私は、子どもがやっていることを邪魔しないっていうのを意識しています。例

えば、水たまりに手を入れて遊んでいる子。ぬれちゃうけれど、楽しそうに笑っていたので見守っていると、その手を今度は道路に手形のスタンプを押すみたいにペタペタ絵を描きはじめました。その後、その子は紙でも手形が取れるようになりました！すごいなって思いましたね。その他にも、フェンスに手を掛けて、タタタターっと手を横に動かしていく、その感触を楽しんでる子もいます。手が汚くなっちゃうから、切れちゃうからって止める事が多いかもしれないですが、「ダメ」というのではなく、安全な時だけフェンス側に誘導して、色々な感触が楽しめるようにしてあげたいです。特性があっても、その子なりに考えて夢中で遊んでいる時の笑顔がすごく可愛いから、大事にしてあげたいと思います。

### 洗濯ばさみの色のひみつ・・・

吉森さん：連絡帳を留めるのに使っている、色のついた洗濯ばさみ。先生たちの知らない間にエプロンの後ろにそっとつけている子がいました。しばらく様子を見てみると、全員の先生にこっそりつけて…ピンク色の洗濯ばさみをつけた先生は「ウサギ先生」、黄色が「キリン先生」、青が「ゾウ先生」。先生たちは自分が呼ばれているとは知らずにキョトン。子どもはそれが面白くて「キリン先生ー！！」って呼んで、楽しそうに遊んでいました。子どもは見立て遊びがすごく上手なんです。マグネットのおもちゃを「白、ピンク、緑、白」という順で挟み、「パン、ハム、レタス、パン」って言いながら食べていて。こちらもそのうちに「ああ、サンドイッチだ！」ってわかって、コップを添えてあげると、「せんせい、お茶どうぞ」って差し出してくれたりします。そういう感じで邪魔はしない！子どもたちの自分の世界を大事にしたいと思います。きっと皆さんも一緒ですよ。

司会：そういうの見つけると、嬉しいですよ

ね！あ、こういうことしたかったんだ～って。



### 雨のダンス

石川さん：4歳年中組の子どもたちは、わかることも増えてきているけど、まだ現実と空想の世界を行ったり来たりしているんです。雨が降っていた日、ある女の子が「今日は雨の日だね。お外に行かれなくて残念だけど、雨はすごく好き！」と言ったので、理由を聞いてみると、「雨がダンスするから好き」と言うんです。雨だれがベランダの手すりに落ちてはじける様子が、子どもたちは大好きなんですね。

子どもの世界ではこんなこともあります。寒くなってきてお母さんが黒いタイツを履く様子を「ママね、前は透明の皮はいたの。最近は黒い皮はいるんだ」とか。面白くて大好きなんですけど、たくさんありすぎて忘れちゃうほどです。

司会：雨の日に道端で立ち止まっている子は、そういう雨のダンスを見て何かを感じているのかもしれませんがね。乳児園はどうですか？

### 赤ちゃんの遊びの世界

佐藤さん：保育室に鏡があるんですけど、赤ちゃんが鏡に向かって笑いかけている所が可愛いですね。自分だとわかっている子もいれば、ただ動くから面白って見ている子もいます。体操する時も、ちゃんと鏡の前に行っ自分を見ながら体操する子がいたり。

先生が読み聞かせをするのでご本を片付けましようってなった時に、いつまでも頑なに

本を持っている子がいるんです。そのまま見ていると、先生の真似をして読み聞かせをはじめたんです。それがやりたくって片付けなかったんだー！って。このように、面白い発見は乳児でも沢山ありますよ。子どもたちはよく先生の姿を見ています。私はよく後ろに手を組んで歩いちゃうんですが、それと同じ姿で歩く子がいた時に、びっくりして、直さなきゃと思いましたね。

### 今日の感想を一言ずつお願いします。

司会：みなさんそれぞれ違うところで働いているけれど、保育者として繋がっていると思うところが何度もありました。「見守る中で育てたい」「子どもの目線に立ってみる」という感じ…同じ場所に立ってみたらわかることがあるんだなど。最後に、この座談会を通して感じたことを伺えたらと思います。

### やっぱり楽しい、保育も子育ても

中山さん：私は若い保育者、経験の浅い先生たちともこういう話をしたいし、伝えたいと思いました。こんなにも子どもの世界は面白く、素敵なことであふれている。そして、素晴らしくやりがいのある仕事に携わっているんだよということを。今は必死で押しつぶされそうな思いでも、それを1回取り払ってほしいですね。

佐藤さん：先生たちの子どもに対する愛情の深さが感じられました。笑顔いっぱい先生の姿を想像すると、私も子どもになってそばにいたいと思うくらい。悩んでしまうこともあるけれど、子どものことを思って仕事をしたいなって改めて思いました。

石川さん：園も年齢も一人ひとり違う子どもたちだけ、先生たちは同じように、子どものことを考えて可愛がっていることがわかり

ました。「わかるわかる」と共感できることが意外とたくさんあって良かったです。

吉森さん：私も若い先生とこういう話ができたらいいなと思いました。たぶんそんなに楽しいって思う余裕はなくて、ときには子どもを「止めなきゃ」という必死な毎日を送っているのがわかるから。「一步待って見ているとこんなに面白いんだよ」というのがわかると、より仕事を楽しんでもらえると思います。

柊木さん：保育士って日々忙しくて、こうやってそれぞれの保育について話す機会ってないと思うんです。こういう時に保育について笑顔で話せる先生たちって、子どもたちの中で流れている時間で一緒に生きているから楽しいって感じられるんじゃないかな。実は、仕事もあって大人の時間で生きている親御さんたちにとっては、この「子どもの時間を感じる」とって、よっぽど意識しないとむずかしいときもあるかもしれません。保育士が親御さんにもっと子どもたちの世界のことを上手く伝えていけたら、子育てを楽しく感じられる人が増えていくんじゃないかなって思います。子育てって、保育って、大変だけど実は楽しいことだらけだよってことを知ってもらえたら嬉しいですよ。

司会：その年齢の世界でしか見れない姿、発言、視点がありますよね。

今日はありがとうございました！

＼有意義な座談会でした！／



# きりり通信

きりりんな日々

宝安寺社会事業部の仲間の  
作品や活動を紹介するページです！

vol.2 柳下千絵さん ほうあん第二しおん



柳下さん  
やってみましょう！



ほうあん第二しおんでは、障害のある利用者さんたちが様々な活動をしています。その中で、今回の主役の柳下さんは、小さくはにかんだ表情が素敵な方です。宝安寺社会事業部とは、彼女がほうあんふじ（当時の富士学園）に通っていた22年前からの繋がりがあります。入社5年目の私たちとは、5年のお付き合いです。

いつも周りの様子を静かにじっと見つめ、面白いことがあるとにっこり微笑んでくれる柳下さん。その場が優しい雰囲気になります。柳下さんは2月からアイロンビーズでネコバスの額絵に挑戦しています。お母様が「トトロが好き」だと教えてくださったからです。始めたばかりの頃は、支援員が手を添えて自助具のじょうごに入れていましたが、ご自分の力で入れられるようになりました。きっかけは、入社したばかりの支援員、平山さん。ある時、平山さんが「柳下さんやってみましょう！」と声をかけると、柳下さんはご自分でビーズを持って、じょうごに入れる

ことができたのです。自然な2人のやりとりで周りの職員は少しびっくり。正直、柳下さんには難しいかな…と思い、ご自分でやるように声をかけたことはありませんでした。

時々、支援をしていると利用者さんの意思をくみ取ることの難しさに戸惑ってしまうことがあります。しぐさや表情から「きっとこういうことを伝えてくれているのだろう」と思っても、自分の見立てを信じられなかったり、作業で試してみたいことがあっても、「難しいかな」とあきらめてしまうことも。でも、平山さんと利用者さんの関わりをみると、「やれるかもしれない」と思えました。

平山さんに「支援で気をつけていることは何ですか？」と聞いたら、「えー、なにかしら。利用者さんの笑顔を見たいだけなのよね。」との答え。平山さんの優しい雰囲気や声かけが柳下さんに合ったのかもしれないけれど、それだけではなく、そもそも「できない」なんて平山さんは思っていなかったのかも？利用者さんの能力を「ここまで」と決めてい

How to |

ネコバス額絵ができるまで



1 持ってもらったビーズを支援員が持っているじょうごに入れてもらいます。



2 なかなかスムーズに入れられないときには声かけも大切です。



3 崩れないようにボンドをつけて固定しています。



4 完成まであと少し頑張ります！

たのは私たちだったのかもしれませんが。

何をどれだけできるかなんてわからない。もしかしたらできないかもしれない。でも、作業に参加しているという実感や、完成したものが褒められることで得られる達成感・自己肯定感を感じてほしい。だから、目に見えるものに挑戦して、それを見るたびに自分が作ったということを実感してほしい。もし、完成しなかったとしても挑戦したことを利用者さんも支援員もお互いに認め合えばいいんだ、そんな風に感じました。

5年間の経験を積んだ私たちは、任せられる仕事の量や責任が増えてきました。一人ひとりの利用者さんと向き合いつつも、今日一日をこの職員の人数でどう乗り切ろうか、ということに頭をフル回転させたり、直接利用者さんには関わらない業務に頭を抱えることも多くなってきました。新しい職員が入れば「教えなくっちゃ！」なんて意気込んだりして…。そんな風になっているうちに、この利用者さんはこういう人なんだ、とよく向き合

いもせずに知ったように利用者さんに接している自分に気づいて、「自分は何をやっているのだろうか？」と思うこともしばしばです。

そんな時に出会った平山さんは、優しい雰囲気で大変なことを私たちに教えてくださいました。初心を忘れずに、新鮮な気持ちで利用者さんに向き合っていけるような心をもっていたいと感じました。



この記事は / 私を担当しました！

名前: 梨本朋恵(第二しおん)	名前: 久保未希子(ふじみのさと)
好きな食べ物: 激辛料理	好きな食べ物: チーズ、塩味のおせんべい
行きたい国: 天国に一番	行きたい国: フィンランド
近い島のニューカレドニア	

## おわりに 中山 里奈 (小田原愛児園)

子ども探検隊のツアーはいかがでしたか？

私たち大人も、  
持って生まれた探究心や好奇心…。  
大人になると、忙しく過ぎていく日々の中に  
埋もれてしまい、子どもだけが持つ感覚のよ  
うな気がしてしまいます。

子どもたちの目には、  
今どんなものが映っているのか。  
どんなことを感じているのか。  
子どもたちの世界を知ることは、むかし私た  
ちの目にはどんなものが映っていてどんなこ  
とを感じていたのかを知ることができる素晴  
らしい時間でもあります。

夢中になって遊ぶ子どもたちの姿から  
癒しをもらう、気づきをもらう、学ぶ。  
素晴らしい瞬間をありがとう、  
と子どもたちに伝えたいです。

子どもたちの環境を守ること。  
成長する支えになること。  
子ども探検隊の一員としてそれらを心に抱い  
て、寄り添っていきたいと思いました。

それでは皆さん、  
また次の子ども探検隊ツアーで  
お会いしましょう！



## 宝安寺社会事業部 後援会とは

### ■会員になるには

入会申込書に記入し、会費の納入をお願いします。  
後援会事務局（小田原愛児園園舎内）にて  
担当者に直接手渡すか、郵便振替もできます。

### ■年会費

個人会員 1口 2,000円から  
法人・団体会員 1口 10,000円から

子どもたちや利用者さん、皆が暮ら  
しやすい地域づくりをめざす宝安寺  
社会事業部の応援団として、さまざ  
まな協力活動を行います。

### ■宝安寺社会事業部後援会事務局

Tel: 0465-22-7667 Fax: 0465-24-4411  
E-mail: kouenkai@houan1900.jp

## スタッフ募集 保育士・生活支援員・児童指導員・OT・PT・調理員…

子どもたちや利用者さんの  
笑顔をつくりだそう！  
見学・職場体験できます。

### ■採用・求人に関するお問い合わせ

TEL: 0465-22-3030 (採用担当)  
ウェブサイトで採用情報を随時更新中  
<http://houan1900.jp>

宝安寺社会事業部と一緒に働いてみませんか。



houan1900 採用

切り絵イラスト: a.fujii

# 日々是好日



春は花  
夏ほととぎす  
秋は月  
冬雪さえて  
涼しかりけり  
道元



\*道元禅師が詠んだ「本来の面目」という歌です。

その真意は、それぞれがそれぞれらしく、ありのまま清々しく、そしてそのこと自体がすばらしいということです。  
草は草、木は木、花は花であることが絶対の安心であり、人も背が高いとか低いとか、運動が得意とか苦手とかという比較ではなく、それぞれの立場で精一杯一日一日を全うすることが絶対であるということ。

みんなちがってみんないい。

私たちが、この命をまっとうするためには、この今の瞬間瞬間に自分の身心をあずけて生きる以外にありません。仕事や勉強だけに限らず、食事、清掃、菜園づくりなどの生活全て一つ一つのことが全て自分自身と向き合うことであり、自分自身の心を磨くことになります。「のぼせや恐怖、観念に分裂する以前の命の真実相に落ち着いていることを、自己の正体といいます。」

縁あって同じ時代に、同じ土地で生きる私たち。協力したり、助け合ったり、一緒に働いたり・・・。  
今ここで出会った皆さまが心を通わせて共に歩めますように。ひとりひとりの「本来の面目」がきらりと輝きますように。

合掌



関東大震災で焼失した山門は90年を経て再建されました。



江戸の昔から子どもたちを守ってきた延命地蔵さん。(赤ちゃんを抱っこしています)

道元禅師(どうげんぜんじ)…鎌倉時代初期の禅僧。曹洞宗の開祖。徒(いたずら)に見性を追い求めず、坐禅している姿そのものが仏であり、修行の中に悟りがあるという修証一如、只管打坐の禅を伝えた。宝安寺は曹洞宗の禅寺。



社会福祉法人 宝安寺社会事業部  
〒250-0004 神奈川県小田原市浜町1-4-38  
TEL:0465-22-7667(法人本部)  
FAX:0465-24-4411 <http://houan1900.jp>